

かあちゃん取扱説明書を読んで

四年三組 金城 星良

私がこの本を選んだ理由は、母にすすめられたからです。取扱説明書という言葉がおもしろそうだったのを選びました。

主人公の哲哉はよくかあちゃんにガミガミ言われています。そんな哲哉はある日とうちに「かあちゃんほめられることに弱い」と言われました。それをきっかけにかあちゃん

取扱説明書を書くことにしました。

私が一番感動した場面は、哲哉がかあちゃんのおいてあるスーパームードへ行ったお話です。かあちゃんは若いお姉さん二人をさがえていました。すると、一人のお姉さんがピコを落してしまいました。それに対して、母ちゃんは、失敗はだれにだってあるんだから、いちいち落ちこまなくていいのよと言った場面です。ガミガミ言っているかあちゃんでもやさしい部分があるんだと思えました。

哲哉の作文の場面では、朝からかあちゃんにじやされてムカムカしていた哲哉はかあちゃんへの悪口を作文にあれこれ書いていました。ですが、私がこの状況にあったとしても、悪口は、書きません。なぜなら、ムカムカしているのなら、気分が良くなるような事を書いた方がスッキリすると思います。

この本を読む前は、宿題も自分からしない哲哉が取扱説明書を書いてみてもすぐにあきらめるのでないかと思いましたが、でも、どんどん読んでいくうちに、取扱説明書がどんどん進んでいったので、すごいなと思いました。

哲哉が書いたかあちゃん取扱説明の内容はかん単で、やろうと思えば出来る事ばかりでした。それでも、かあちゃんをコントロールできていたので、すごいと思いました。

おわり